

---

## 編集後記

---

今般の令和2年7月豪雨にて被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

2018年7月の西日本豪雨では、台風以外でも甚大な降水被害をもたらす「線状降水帯」が注目されましたが、今夏もその恐ろしさをまざまざと突きつけられました。同様の被害を最小限に食い止めるためハザードマップの有効活用などが指摘されていますが、異常気象を誘導しているとされる地球温暖化への根本的対策が早急に望まれるところです。

一方、半年前にはわれわれが想像もしえなかった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は、全世界で1,600万人を超える感染者と64万人を超える死者を出し、今後も予断をゆるさない状況であり、日常生活にも多大な影響をもたらしています。（7月26日現在）

さて現況下、日本透析医会雑誌35巻2号は予定通りに発刊される運びとなりましたが、ご多忙の折ご執筆いただいた諸先生のご協力によるものと深く感謝申し上げます。

本号では医療安全対策として日本透析医会のCOVID-19への対応、透析患者におけるCOVID-19 2例の症例報告をタイムリーに掲載することができました。医療制度、医療経済においては2020年の診療報酬改定に対する対応2編、実態調査2編、トピックス2編、公募研究7編、臨床と研究8編の多岐にわたる内容を網羅し、大変充実した読み応えのある論文ばかりです。諸先生の日常診療にお役だて頂ければ幸甚です。是非ご一読ください。最後に読者の皆様のご健康をお祈り申し上げます。

会誌編集委員 久野 勉